第１号議案

平成２４年度 事業報告

平成 24 年度は、平成 27 年度に予定する新幹線函館延伸に備え、函館を中心とした北海道道南地域をはじめ、秋田県北地域を含めた津軽地域の広域連携の推進を図るとともに、これまで整備をしてきた観光コンテンツの磨き上げ、新たなる観光資源の発掘及び開発に努めた。特に当地・弘前の街並みや文化の特徴、個性を最大限に活かすべく「街歩き観光」の推進に努め、全国規模で展開している「日本まちあるきフォーラム」を誘致開催し、それらを核に地域の魅力再発見やホスピタリティの充実を図った。

また、今年で事業化 10 年目を迎えるフィルムコミッション事業は、これまで培った実績が実を結び、大きなＰＲ効果が期待できる映画（『奇跡のリンゴ』）、ドラマ等の誘致に成功、ロケにかかわる各種支援に努めた。

その他、インバウンド観光の推進を図るべく、青森県、弘前市と連携し、人気韓国ドラマ（『チャカン男子』）のロケ誘致を行い、韓国からの観光客の誘致に努めた。

さらに、国の公益法人制度改革に対応し 12 月 11 日に青森県に対し移行認定申請し、去る 3 月 21 日に県知事からの認定を受け 4 月 1 日に公益社団法人へ移行した。

【部会報告】 理事を部会委員として下記の四つの部会を編成し、弘前の観光について検討を行い、観光事業を推進した。

・総務検討部会

新法人移行に向けて検討と準備を行うと共に、新定款や諸規程等の整備をおこなった。

また、観光弘前応援団「サポーターズクラブさくら」の見直しを行い、会員への情報発信を強化すると共に、会員特典として新たに「桜（４月）から始まるカレンダー」を製作し弘前の観光ＰＲ用として配布した。

・まつり検討部会

さくらまつり及びねぷたまつりの魅力度を高めるための調査研究を行い、さくらについては、①桜桟敷及び屋形船の設置、②観桜会（かんごかい）イベントの実施、③まつり期間の街なかの宣伝物のデザイン統一を、ねぷたについては、①ねぷた最高賞を「ねぷたグランプリ」に改名、②友好賞の増設、③本賞受賞団体の翌年初日への参加を呼び掛けること等を提案した。

・地域活性化検討部会

２０１５年新幹線函館開業を見据えた函館や南北海道との連携について、「大人の修学旅行」をテーマに相互交流の仕組みや、函館検定と津軽ひろさき検定の共同研究等について検討した。また、活性化について、各団体で行う行事や取組み等の調査や情報発信の強化について検討した。

・誘客推進検討部会

インバウンド観光の推進、新幹線函館開業対策等をはじめ、ＪＲとの共同事業の企画研究に係る課題の調査、また修学旅行等商品開発の調査研究を幅広く検討した。

【公益目的事業】公1伝統行事等の振興事業　平成24年度事業決算　22,926,802円

弘前において毎年開催されている四季折々のまつり行事等の運営により、地域の活性化に寄与すると共に、伝統行事を後世に伝える役割を果たした。また、今年の冬は豪雪に見舞われた年であったが、まつりやイベントを開催した日は天候に恵まれ多くの来場者があり、にぎわいを見せた。

さくらまつり運営事業　　事業費計　15,503,117円

今年度のさくらまつりは、全国的な遅咲き傾向の中、開花が４月２７日と遅れたことと低温が続き前半の人出は伸びなかった。後半、花が咲き始めると人出も増え始めたが、５月３日の風雨により花が散り始め５日には園内のソメイヨシノが８分散りになったにも関わらず、３２万人の人出を記録した。

また、５月６日～７日まで会期を準まつり体制として延長した。

・まつり期間　　４月２３日（月）～　５月５日（土）（６日（日）～７日(月)まで延長）

・人出（推定）　まつり期間　１９０万人（対前年１８万人増）　延長分　２２万人

合計　２１２万人

観桜客おもてなし事業

観桜客に桜を楽しんでいただくために、下記事業を実施した。



１）広告宣伝事業

団体・企業・個人等から広告協賛を募り、弘前公園に「さくらまつりぼんぼり」を設置。

・ぼんぼり本数　　548本　（対前年54本増）

２）敷物貸付事業

本丸と二の丸で敷物（ゴザ）の貸出及び二の丸雨天休憩所の管理に努めた。

・敷物貸出枚数　本丸　179枚（対前年59枚減）二の丸　2,394枚（対前年328枚増）

３）抹茶接待事業

弘前公園二の丸与力番所において、茶道四流派にご協力頂き抹茶の接待を行った。

・利用者数　　6,361人　（対前年43人減）

４）さくらまつり貸しボート事業

観光客に水上から桜を楽しんで頂くため、弘前公園西濠において貸しボートを行った。

・利用艘数　　4,695艘　（対前年372艘減）

５）手荷物預かり事業

弘前駅前広場において手荷物預かり及びホテル宅配事業を行い、観光客の利便向上に努めた。

・荷物預かり個数　　984個（対前年672個増）　　・ホテル宅配個数　32個

６）ボランティアガイド事業

観光客を案内するため、弘前公園の追手門と東門へボランティアガイドが常駐し、園内を案内する等、観光客へのおもてなしに努めた。

伝統芸能推進事業

四の丸演芸場で津軽三味線、民謡、登山囃子等を披露し、訪れた観光客へ津軽の郷土芸能文化を披露し、まつりを盛り上げた。

ねぷたまつり運営事業　　事業費計　5,581,971 円

今年度のねぷたまつりの人出は、天候に恵まれ、順調に推移した。また、７月２９日の「ちびっこねぷたのお通りだい」に市内９ヶ所の園児が参加し好評を得た。

８月７日には「なぬかびおくり」を岩木川河川敷で開催し、ねぷたを燃やしまつりのフィナーレを飾った。



・まつり期間　　平成２４年８月１日（水）～７日（火）
・人出（推定）　　１６２万人（対前年１万人増）
・参加台数　　８３台
　（大型扇６２台　組５台　小型扇１５台　担ぎ１台）

弘前ねぷた保存奨励事業



・企業、関係団体の協力を得て、ねぷたコンテストを実施した。
　県知事賞　組ねぷたの部　西地区ねぷた親交会（３年連続）
　　扇ねぷたの部　東地区町会連合会
・奨励事業として、ねぷたを運行している埼玉県北本市からねぷた囃子講習会の依頼を受け囃子の指導をした他、11 月 10 日に開催した「北本まつり宵祭り」に招致され、弘前ねぷたの披露及び指導をした。
・保存事業として、弘前ねぷた保存会、陸奥新報社、津軽錦絵作家協会、伝統ねぷた囃子津軽組等の関係団体と共催で、ねぷた絵の描き方、ねぷた囃子の講習会を実施した。

伝統行事等推進事業　　事業費計　1,841,714 円

弘前城菊と紅葉まつり、弘前城雪燈籠まつり、弘前雪明り等の各実行委員会に参画し、まつりの充実に努めた他、津軽地域で行われている伝統行事やまつり等の協力や支援を行った。

弘前城菊と紅葉まつり

本年は、まつり前半を「菊花」、後半を「もみじ」と「りんご」を中心に展開すると共に、弘前りんご博覧会事業と連携させてＰＲ展開をすることで県内外からの誘客を図った。

今年度のイベント　①りんごをテーマにしたクイズで植物園内を散策する「クイズラリー」
　②弘前城天守の壁面に幻想的な光のアート「デジタル掛け軸」の投影
　③もみじの紅葉の時期に合わせて「紅葉の特別照明」
・まつり期間　　平成２４年１０月１９日（金）～１１月１１日（日）
・人出（推定）　　２９０，０００人（対前年２１０，０００人減）

弘前城雪燈籠まつり

弘前城雪燈籠まつりの大雪像は日本基督教団弘前教会を製作し、様々なイベントやアトラクションが行われた。会期中は好天に恵まれ、人出も昨年を６万人上回る３２万人であった。

また、例年同様に来場者への利便を図るため、まつり本部１階に喫茶コーナーを設置してサービス向上に努めた。

・まつり期間　平成２５年２月８日（金）～１１日（月）

・人出（推定）３２０，０００人（対前年６０，０００人増）



弘前雪明り

今年度は、弘前公園会場、吉野町緑地会場の２会場に蓬莱広場を加えた３ヶ所と、商店街連携事業による中心商店街も含め、ほのかなキャンドルの灯りにより会場周辺や商店街全体の明るい雰囲気作りや賑わいを演出した。吉野町会場では１００体を超える「わんこ(犬)」の雪像が製作され、「AtoZ MemorialDog」の周りをキャンドルの灯りと共に演出した。

今年は白神山地世界自然遺産登録２０周年にあたり「自然」や「環境保護」等をテーマにイラストやメッセージを描いてもらい、ホルダーに貼り付けてキャンドルを灯し、自然環境の保全をＰＲした。各会場では様々な団体の協力により、温かい飲み物や食べ物等の販売が行われ、会場を訪れた方々から好評を得た。



【公益目的事業】公２観光施設管理運営事業　平成 24 年度事業決算　85,736,694 円

弘前市より市内の観光施設の指定管理及び管理運営を受け、利用者に喜ばれる施設を目指し、イベント等を実施した他、弘前を訪れる観光客の利便性の向上に努めた。

観光施設管理運営事業　　事業費計　85,410,694 円

弘前市観光案内所管理運営事業

ＪＲ弘前駅ビル内にある弘前市観光案内所で、旅行客が安心して市内散策が出来るよう観光案内に努めた。また、昨年に引き続き年末年始開所した他、駅からホテルへの手荷物配送サービスを行った。

・平成２４年度利用者数

６２，４８８人　（対前年　２，１１７人増）

・手荷物配送サービス

１２８件　（対前年　１１件増）



弘前市立観光館指定管理事業

多様化する旅行者のニーズに合わせた観光情報の提供や観光案内を行った他、多目的ホール、研修室の貸室業務を行った。

また、追手門広場を案内する「プチガイドツアー」や観光館内でイベント等を開催した。

・平成２４年度入館者数　５４８，３３６人（対前年　２１，５５５人増）

・主な催事

短歌・俳句・川柳コンテスト
ねぷた絵描き方講習会（共催）
金魚ねぷた作り方講習会（共催）
ねぷた囃子講習会（共催）
ねぷたミニ作品展（共催）
追手門広場イルミネーション



弘前市りんご公園指定管理事業

りんご生産日本一のＰＲ施設として開設された、りんご文化の啓蒙とりんごの収穫体験をはじめとする各種生産体験を行う等、弘前りんごのＰＲに努めた。春には「りんご花まつり」、秋には「りんご収穫祭」に加えて「りんご音楽祭」や「りんご節世界大会」が開催された。

・平成２４年度入場者数　１３５，５３５人（対前年２６，１３５人増）

・主な催事

りんご娘ミュージアム	（４月１０日～１１月３０日）
せせらぎの園展	（４月１日～１９日）
りんご草木染展	（４月２３日～５月１８日）
りんご公園　春の絵画展	（５月２８日～６月２１日）
りんごｎｏ器展	（５月２８日～６月２１日）
りんご裂織展	（６月２５日～７月２６日）
りんご創作炭展	（７月２日～２６日）
りんごが素材の工芸展	（７月３０日～８月２３日）
津軽こぎん刺し展	（７月３０日～９月２７日）
りんご公園　秋の絵画展	（１０月１日～１１月３日）
四ツ屋窯展	（１月４日～２月７日）
りんご園のふくろうと小物展	（２月１１日～３月７日）
小沢小学校りんご作品展	（３月４日～３０日）



弘前市まちなか情報センター指定管理事業

市民並びに旅行客に各種情報、交流と休息の場を提供すると共に、中心市街地に賑わいを創出し活性化を図るために各種イベントを開催した他、交流室、スタジオ室の貸室業務を行った。

・平成２４年度入館者数　５６，７０２人（対前年　７，４７４人増）

・主な催事

第８回弘前さくらまつり書道展	（４月２３日～５月６日）
ライトダウンジャパン２０１２	（６月２１日）
ファッション甲子園ＰＲ展示	（８月７日）
平成２４年度夏期高校生アナウンス講座	（８月１３日～１６日）
津軽ひろさき検定中級試験解答＆問題パネル展示	（１１月１２日～３０日）
リサイクルキャンドルづくりワークショップ	（２月２日～７日）
春期高校生アナウンス講座	（３月２７日～２９日）

指定管理施設自主事業　　事業費計　326,000 円

弘前市りんご公園自主事業

　りんご公園内にある旧農家住宅を活用し、津軽語り部の会と三味線の会の協力により４月から１２月までの毎週土、日、祝日に津軽弁による昔語りと津軽三味線のミニライブを行い来場者へ津軽の文化を披露した。



【公益目的事業】公３観光振興事業　平成 24 年度事業決算　31,025,047 円

観光キャンペーンでの観光ＰＲやインターネットでの観光情報発信、外国人観光客受け入れ態勢の強化、映画・テレビロケ協力・支援、コンベンション開催支援により観光客の誘致を図った。

観光推進事業　　事業費計　14,687,058 円

観光支援事業

　観光事業の推進のため、各観光団体が開催する事業に協力や支援を行い、弘前市及び津軽地域一円の観光活性を推進した。



観光サポート事業

１）さくらサポーターズ事業

「サポーターズクラブさくら」会員への特典の充実を図るため、弘前の観光、物産、イベント等の情報を年４回、メルマガを月２回発信した他、新たな特典として弘前公園オリジナルカレンダーを作成し、会員へ提供した。



２）サイクルネット事業（弘前市補助事業）

　弘前市観光案内所、弘前市まちなか情報センター、弘前市立観光館、津軽藩ねぷた村の他今年度より弘前市りんご公園もステーションに加え実施した。また、今年度からレンタル料を３００円とし５月から１１月まで観光用貸自転車の貸し出しを行った。

　また、弘前市旅館ホテル組合加盟店には宿泊者のサービスの一環として、無料で配置した。

・利用台数　６，５８８台（対前年　１，５５１台減）



３）第２回日本まちあるきフォーラム in 弘前 開催事業

平成２３年度に長崎県長崎市から始まった「日本まちあるきフォーラム」の第２回目を、弘前市をメイン会場に、一般財団法人日本まちあるき協会、津軽ひろさき街歩き観光推進実行委員会と共催で開催。

近年、全国各地で盛り上がりを見せ始めている「街歩き観光」の全国の事例、街歩きの持つ可能性などについて議論を深めながら、津軽の地で育まれた「街歩きスタイル」をモデルに学習するフォーラムを実施した。



・開催日　平成２４年１１月３日（土）、４日（日）

・参加者　２７０名

４）ボランティアガイド育成事業（弘前市受託事業）

平成２４年度より、弘前市から観光ボランティアガイド活用促進に係る事業やその連絡調整に係る業務等を行なう「弘前観光ボランティアガイド養成事業業務委託」を受けた。その中で弘前観光ボランティアガイド等、当市の観光ガイドの資質向上に資する研修事業として、「第２回日本まちあるきフォーラム」に参加し、全国で活躍するガイド団体の取り組みなど見識を深め、今後のガイド活動の資質向上に努めた。

また、「弘前観光ボランティアガイドの会」が平成７年から弘前公園内で春期、夏期、秋期と年３回実施しているガイド活動特別活動に対し、係る費用の助成支援を行なった。

・春期特別活動（弘前さくらまつり期間延長ありとして）

平成２４年４月２３日～５月７日まで

案内件数　４７１件　　人数　１，６２２人

・夏期特別活動（弘前ねぷたまつり、お盆期間として）

平成２４年８月１日～８月２０日まで

案内件数　１７４件　　人数　　４９４人

・秋期特別活動（弘前城菊と紅葉まつり期間として）

平成２４年１０月１９日～１１月１１日まで

案内件数　２５８件　　人数　　９４５人



誘客推進事業　　事業費計　8,312,790 円

観光情報宣伝誘客事業

青森県や弘前市並びに観光団体と共に教育旅行の誘致や観光キャンペーンに参加し、観光客の誘致に努めると共に、インターネットを使った観光情報の発信や旅行雑誌等へ掲載を行い、観光宣伝を行った。また、情報の一元化や効率的な情報発信を目的に弘前観光コンベンション協会ホームページをリニューアルし、青森県観光情報サイト（アプティネット）や弘前感交劇場ポータルサイト（Ring-Oweb）との連携による情報更新システムを取り入れた。

・弘前観光コンベンション協会ホームページ（http://www.hirosaki.co.jp/）

平成２４年度アクセス数　１，２５１，８２６件（対昨年６７，２１９件減）

・弘前感交劇場ポータルサイト「Ring-O（観光版）」（http://www.ring-o.jp/）

平成２４年度アクセス数　１，３７６，９９８件（対昨年１０７，４７０件増）

・主な参加キャンペーン

北海道道南地区教育旅行誘致促進キャラバン　（６月２７日～２９日）
旅行エージェントキャラバン及び教育旅行情報交換会（７月２日～５日）
地域活性たからいち　（７月２１日）
首都圏教育旅行誘致促進キャラバン　（８月２２日～２３日）
ハイウェイフェスタとうほく 2012　（９月１５日～１７日）
浅草・弘前ねぷた運行　（１０月２０日～２１日）
北本まつり「宵まつり・産業まつり」（１１月１０日～１１日）
第 64 回さっぽろ雪まつり　（２月５日～１１日）
津軽ひろさき冬の旅キャンペーンエージェント訪問（２月）
旅まつり名古屋２０１３　（３月１６日～１７日）



広域観光活性化事業

１）津軽地域と秋田県北地域との主な連携事業

津軽地域観光協会会長サミットの開催
第２回日本まちあるきフォーラム
in 弘前エクスカーションコースの実施
津軽・秋田県北まちあるきガイド作成
広域観光コンテンツ勉強会の実施
モニターツアー『弘前りんごツーリズム』実施
名古屋共同キャンペーンの実施
各地域のまつりへの参加協力



２）函館を中心とした南北海道地域との主な連携事業

広域滞在型観光に向けた意見交換会への出席
新幹線開業はこだて魅力創造ゼミナール「はこゼミ」への講師派遣
はこだてグルメサーカスへの出店
はこだてクリスマスファンタジー「ひろさきナイト」への参加
特別講演「函館・みなみ北海道の広域観光の取り組みについて」実施
木古内町地域おこし協力隊観光業務研修生の受入

３）友好都市である北海道斜里町の「津軽藩士殉難慰霊祭」と「しれとこ斜里ねぷたまつり」及び群馬県太田市「尾島ねぷたまつり」に参加した他、旧弘前市と旧尾島町の友好都市盟約締結２０周年を記念して行われた弘前市民号へ参画した。

外国人観光客推進事業

弘前市が国の訪日外国人旅行者の受入環境整備に係る戦略拠点・地方拠点に定められたことにより、各国のニーズに合わせた内容で多言語パンフレットの作成を弘前市と共同で行った他、既存のガイドマップや観光案内標識の多言語部分の見直し、修正を行った。

また、下記のとおり海外からの観光客誘致活動を行った。

１）韓国ドラマ「チャカン男子」の弘前ロケ

本県唯一の国際定期路線である青森・ソウル線の週４便運航の維持、拡大を図るため、県及び弘前市など関係者が協力して弘前ロケを誘致・実現した。放映後は、韓国旅行会社による旅行商品造成が行われた。

２）台湾からの観光客誘客促進

仙台⇔台湾線及び新たに開設された函館⇔台湾線を利用し、青森と道南を結びつけた新たな商品造成による台湾からの誘客促進を図るため、エバー航空及び主要旅行会社との商談会に参加し、誘客に努めた。

３）台湾（高雄市）の旅行会社訪問

弘前圏域産りんごを多く輸出している台湾から、より多くの観光客誘致を図るため、青森県及び弘前市、弘前市内の観光関連団体で、台湾　高雄市内の旅行会社へ誘致活動を行った。

（訪問旅行会社：五福旅行社・長谷綜合旅行会社・富康総合旅行会社・尚景総合旅行会社）

４）その他

・弘前市とブーヴロン・アン・ノージュ村（フランス）と技術協定締結

日本一の弘前りんごを原料とした「地シードル」作りを目指し、シードルの本場であるブーヴロン・アン・ノージュ村（フランス）の製造技術を学ぶため、技術協定を締結した。

・エバー航空商談会　（11 月 8 日）・台湾（高雄市）旅行会社訪問　（1 月 31 日～2 月 3 日）

フィルムコミッション事業

弘前などで撮影された下記のテレビドラマ、ＣＭ等のロケの協力や支援を行った。

１）平成２４年度の主なロケ支援実績

４月　劇場用映画「奇跡のリンゴ」
６月　テレビ東京「いい旅夢気分」
８月　韓国ドラマ「チャカン男子」
９月　弘前市ショートムービー「りんご農家の少女」
１１月　テレビ朝日・土曜ワイド劇場トラベルミステリー「終着駅殺人事件」ＴＶ-ＣＭ　Ｓｏｆｔ Ｂａｎｋ「ＬＴＥ青森ビデオレター」篇
１２月　テレビ東京・水曜ミステリー９「みちのく麺食い記者宮沢賢一郎２」



コンベンション誘致事業　　事業費計　8,025,199 円

コンベンション誘致活動事業

東北地区コンベンション誘致協議会と協力して５月１０日（木）に東京半蔵門のホテルでコンベンション誘致セミナーを開催し、５６団体の学会主催者と懇談をしながら商談を行った。

また、国際ミーティング・エキスポ（ＩＭＥ2012）へ青森県観光連盟と青森・八戸・むつ下北の４コンベンション推進機関共同で出展。東北新幹線全線開業による交通アクセスの飛躍的な利便性向上と世界自然遺産「白神山地」や築城４００年を越える弘前城等の県内観光地の宣伝と青森県コンベンション開催費助成金の紹介、コンベンション開催支援体制や新規ホテルの開業によるコンベンション参加者の受入態勢の充実をＰＲし、コンベンション情報の収集と先進ビューローとのネットワークの構築を図った。

また、コンベンション誘致・開催支援のため県観光連盟から委託を受け、補助員を配置し誘致事業の強化を図った。



１）国際ミーティング・エキスポ（ＩＭＥ2012）出展

開催日　　平成２４年１２月１１日（火）～１２日（水）

開催場所　東京国際フォーラム　　来場者３，２２５名

出展実績　期間中約３００名が訪れ１３６団体の企業、学会関係者と商談を行った。

２）首都圏にある学会事務局や旅行会社を訪問し誘致活動を行なった。

(社)溶接学会、(社)人工知能学会、(社)精密工学会、京王観光、ＪＡＬＰＡＫ、ＪＡＸＡ、　髙島屋友の会、　松屋

３）弘前市内大学訪問

学術会議の誘致に向け、弘前大学、弘前学院大学、東北女子大学を訪問し、基礎的情報の収集に努めた。

コンベンション開催支援事業

４４件（参加者約１７，０００人）のコンベンション開催に対し次の開催支援を行なった。

１）開催支援内容

・パンフレット、コンベンションバックの提供

コンベンションバック　１０，４４４枚　　2012 ガイドひろさき　３，９５０冊

弘前ガイドマップ　　１０，９４９部

・青森県コンベンション開催費助成金　交付件数１２件　交付額８，１６０，０００円

・弘前市小規模コンベンション助成金　交付件数　２件　交付額　　１５０，０００円

【公益目的事業】公４地域活性化事業　平成 24 年度事業決算　58,149,541 円

津軽地域の歴史、観光意識等の向上と人材育成を行ったほか、津軽地域の観光産業の発展と地域経済の振興を目指し、地域の活性化に努めた。

地域活性化推進事業　　事業費計　58,149,541 円

津軽ひろさき検定事業

弘前市を中心とした周辺地域に関する歴史、産業、人々の暮らし等、地域の生活文化を学習する機会を創出し、自分たちの街に愛着や誇りを持ち、ホスピタリティーを養うことを目的に津軽ひろさき検定を開催した。

・第６回初級試験　平成２４年　９月　２日（日）

受験者１２７名・合格者１１６名

・第５回中級試験　　〃　　１１月１１日（日）

受験者　４３名・合格者　２９名

・第３回上級試験　平成２５年　３月　３日（日）

受験者　３８名・合格者　　４名



地域人材育成事業

1）ふるさとおもてなし案内人育成事業　（震災等緊急雇用対応事業）

市内の主な観光施設へ、お客様のニーズに応える為、観光案内人を配置し、観光客に津軽らしさを交え観光案内をし、おもてなしをした。また、追手門広場でクリスマスイベントや雪明りイベントを企画し祭りを、盛り上げた他、観光客への観光満足度を高めるため、中南地域の観光案内研修や接遇マナー研修に参加し観光客へのおもてなしに努めた。



2）おもてなし案内人配置事業　（震災等緊急雇用対応事業）

昨年に引き続き、中南地域の主要な観光施設へ案内人を配置し、観光施設間の連携を図り、観光客へ広域的に観光案内おもてなし業務を行った。また、広域観光情報を観光客へ提供する為、中南地域の観光案内研修や接遇マナー研修を開催した。



観学連携事業

弘前大学と連携し、郷土色豊かな津軽地域の文化、伝統、自然、産業などをテーマにシニア層を対象とした短期集中型公開講座「弘前大学シニアサマーカレッジ」を開講した。

・受講者　２６名

出版事業

観光客の街歩きの資料及び弘前の様々な情報提供のツールとして「街歩きガイドひろさき２０１２」を発行した。その他、弘前を訪れる国内外の観光客向けに、弘前市と共同で発行している「弘前ガイドマップ」（日本語版、英語版、韓国語版、中国語繁体字版・簡体字版）のうち、日本語版・韓国語版・中国語簡体字版を追加発行した。

また、好評につき「津軽ひろさき検定公式テキストブック」の増刷をした。

・発行部数

ガイドひろさき２０１２	１５，０００部
弘前ガイドマップ日本語版	１００，０００部
弘前ガイドマップ韓国語版	７，０００部
弘前ガイドマップ簡体字版	７，０００部
津軽ひろさき検定公式テキストブック	３００部



【収益目的事業】収１まつり事業　平成 24 年度　収入決算額　19,100,909 円
支出決算額　10,187,513 円

青森県や弘前市等の公共施設並びに弘前公園周辺の空き地等を利用し、臨時駐車場を開設し、さくらまつり期間中の観桜客の利便を図った。また、ねぷた観覧席を設置し、お客様にゆっくりまつりを楽しんで頂けるよう便宜を図った。

まつり客用レンタル事業　収入決算額　19,100,909 円
支出決算額　10,187,513 円

さくらまつり駐車場事業

さくらまつり期間中の交通渋滞対策のため、弘前公園周辺の空き地や駐車場を利用し、臨時駐車場を設置して渋滞対策に努めた。平成２４年度はＧＷ後半を目前に桜が雨風により散ってしまい客足が大幅に伸び悩んだ。

・車両駐車台数１０，９８４台（対前年３，１６１台減）



ねぷたまつり観覧席事業

観光客にねぷたの解説とねぷたを落ち着いて堪能していただくために、観覧席をさくら大通り（１日から４日）とＪＲ弘前駅前（５日・６日）の２ヶ所に設置した。

また、観光客の利便を図るため、市内観光案内施設とチケットぴあの観覧席予約システムを使い観覧席券の全国販売を展開した。

・桟敷観覧席利用者数　４，０２１人（対前年８４人減）



【収益目的事業】収２喫茶・売店運営事業　平成 24 年度　収入決算額　72,249,343 円
支出決算額　59,157,215 円

弘前市の観光施設等を観光客の休息の場として喫茶の開設をし、郷土の物産紹介や販売を行った他、イベントチケットの販売を行い、お客様の利便を図った。

指定管理施設自主事業　収入決算額　7,375,826 円
支出決算額　5,955,158 円

弘前市立観光館自主事業

追手門広場フリースタイルマーケットを開催し、賑わいを創出した。また、観光館インフォメーションにおいて、イベントチケットの販売を行ったほか、自動販売機、携帯電話充電器を設置

し、観光客の利便性の向上を図った。

・全８回開催総出店数　３５９件　　（対前年６１件増）

・プレイガイド事業　取扱いチケット件数　１２件

（対前年４件減）



弘前市まちなか情報センター自主事業

施設の特性を活かし各種イベント等のチケット取扱いと、軽食喫茶売店「カフェセルクル」の営業を行った。

・プレイガイド事業　取扱いチケット件数　３１件

（りんごカクテルパーティ、弘前バル街、土手町・鍛治町プレミアムグルメチケット等）

喫茶・売店事業　　収入決算額　64,873,517 円
支出決算額　53,202,057 円

弘前市りんご公園売店事業

りんご公園内のりんごの家にて、りんごにこだわった軽食や物産の販売を行うと共に、昨年に引き続き７月から１１月までの毎週日曜日に開催された「弘前マルシェ」に出店しオリジナル「りんごいがメンチ」のＰＲを行った。また、りんご公園のリニューアル１０周年を記念して「ご当地アイドルりんご娘ミュージアム～りんご娘のキセキ～ since ２０００」や、りんご博覧会の一環としてりんご収穫祭やりんご音楽祭などを開催し誘客を図った。



藤田記念庭園喫茶売店事業

洋館にて来園者の休息の場として軽食や民芸品の販売を行った他、「カレーフェア」や「パスタフェア」など季節に合った独自のフェアを展開し多くの誘客を図った。



弥生いこいの広場売店事業

弘前市弥生いこいの広場の食堂にて軽食の提供を行った他、野外ではバッテリーカーを楽しむなど、夏季にはかき氷の販売を行い来場者の利便を図った。

【収益目的事業】収３ふるさと商品販売事業　平成 24 年度　収入決算額　17,043,725 円
支出決算額　15,643,963 円

津軽のりんごを始めとする農産物、伝統工芸品やお菓子等の郷土の物産品を楽天市場で販売した。また、資生堂と共同開発した、ご当地コスメの販売をし、地場産品のＰＲに努めた。

観光商品宣伝販売事業　　収入決算額　17,043,725 円
支出決算額　15,643,963 円

ふるさと商品宣伝販売事業

全国にインターネット（楽天ショップ）を使いふるさとのりんごや物産の紹介と販売を行いりんごジュース、お菓子の人気が高かった。

観光商品開発販売事業

資生堂と共同開発した、ご当地コスメの第３弾となる弘前さくらものがたり「ハンドクリーム」を９月に新発売して、これまでの「オードパルファム」、「リップクリーム」とセットで販売した他、学会等のコンベンションや各種イベント開催時にりんごやりんご加工品、伝統工芸品等の出張販売を行い、地場産品のＰＲに努めた。



【収益目的事業】収４旅行業運営事業　平成 24 年度　収入決算額　2,242,593 円
支出決算額　481,801 円

街歩き観光の推進を目的に「弘前感交劇場」をキーワードにした、着地型旅行商品の造成と販売を行った他、民俗伝統行事のツアー等を企画・販売し好評を得た。

旅行業運営事業　　収入決算額　2,242,593 円
支出決算額　481,801 円

着地型旅行商品販売事業

近年、増加傾向にある個人、小グループの旅行客のニーズに対応することを目的に、地域資源を活用した「ひろさき街歩きツアー」約３０コースを企画販売し、街歩き観光の普及・推進に努めた。

・ツアー参加者合計　　２３２組　　７７７人
（対前年　１１１組　１３１人減）
・座禅体験参加者合計　　３８件　１，４０１名



旅行業事業

「弘前感交劇場」をキーワードに津軽ひろさき地域を訪れる観光・ビジネス客をターゲットに、着地型旅行商品、“ひろさき街歩き”の紹介と弘前市で開催される学会、大会等の主催者と協力しコンベンション参加者向けに宿泊プランの販売を行った。

「弘前感交劇場」着地型旅行商品「ひろさき街歩き」を観光ボランティアガイドの会、弘前路地裏探偵団、ひろさきエスコートガイドの街歩きガイド団体と協力して旅行商品を造成し、ひろさき街歩き予約システムによりインターネットで予約、販売、催行管理を行い、ＪＲ東日本“びゅう”、ジャルパックのパンフレットに掲載、紹介、販売することで地域の魅力を発信した。

また、津軽ひろさき地域で冬に行われている古くからの民俗伝統行事やまつりを着地型旅行商品として、インターネットを通じて販売したが、雪が多いなど天候に恵まれなかったためツアー参加者は少なかったが好評を得た。

・「津軽の厄払いと鬼っこツアー」（津軽の鬼には角がない）　参加者数　６名
・「猿賀神社七日堂祭」　参加者数　４名
・「沢田のろうそくまつり」（暴風雪警報発令のため中止）
・「乳穂ヶ滝氷まつり」　参加者数　８名

ＪＲ関連では、ＪＲ東日本の「駅からハイキング」に津軽ひろさき地域のコースを提案し、県外からたくさんのハイキング参加者があった他、ＪＲ北海道函館支社の団体旅行向けに、「弘前城雪燈籠まつりと津軽酒蔵めぐりの旅」を企画し、２７名の参加があった。

・「城下町弘前の四神、青龍・朱雀を歩く」
・「津軽ひろさきりんごの花めぐり」
・「岩木山神社から百沢街道を歩く」
・「弥生の里、田舎館村の田んぼ訪問」
・「津軽ひろさき　りんごの収穫祭を訪ねる」
・「津軽黒石藩ゆかりの地めぐり」
・「津軽ひろさき七福厄払いめぐり」
・「弘前城雪燈籠まつりと冬の路地歩き」



○当協会が参画する事務局業務を務めた。

１）弘前ねぷた保存会　２）津軽情っ張り大太鼓保存後援会
３）弘前城菊と紅葉まつり運営委員会　４）津軽ひろさき冬の旅実行委員会
５）弘前雪明り実行委員会　６）弘前駅自由通路等にぎわい創出実行委員会
７）津軽地域観光団体事務局連絡会議　８）弘前地区日韓親善協会
９）弘前斜里町友好交流の会　１０）津軽・ひろさき街歩き観光推進実行委員会
１１）ちびっこねぷたのお通りだい実行委員会
１２）駅弁・空弁・津軽弁プロジェクト実行委員会

平成２４年度主要行事等一覧

４月　１日　　リゾートしらかみ開業１５周年記念出発式
　　８日　　弘前ボランティアガイド茶話会
　１０日　　弘前仕出し商組合懇親会
　１２日　　津軽地域観光関係団体会長サミット
　　〃　　弘前商工会議所青年部懇親会
　１５日　　ミス桜コンテスト
　１７日　　嶽温泉旅館組合総会
　２２日　　自衛隊弘前駐屯地創立記念日式典及び祝賀会
　２３日　　西濠ボート場安全祈願祭
　　〃　　弘前城さくらまつり開会式

５月　６日　　りんご花まつり開会式
　１２日　　津軽路ロマン国際ツーデーマーチ　（～１３日）
　１３日　　弘前料理飲食業組合総会・懇親会
　１８日　　黒石観光協会通常総会・懇親会
　１９日　　全日本りんご追分コンクール
　２２日　　弘前市物産協会総会・懇親会
　２４日　　青森県旅行業協会総会
　　〃　　津軽の食と産業まつり総会
　　〃　　弘前地区電気工事業協同組合総会・懇親会
　　〃　　弘前商工会議所女性会定時総会・懇親会

６月　１日　　ひろさき卍フェスティバル実行委員会
　１６日　　ひろさき市民花火の集い
　２４日　　弘前市体育協会評議員会議・懇親会
　２５日　　弘前商工会議所議員総会
　２７日　　台南市歓迎レセプション

７月　６日　　弘前城薪能公演
　１０日　　弘前ねぷたまつり安全祈願祭・全体会議
　１２日　　津軽情っ張り大太鼓保存後援会定時総会
　　〃　　弘前ねぷた保存会総会
　２０日　　在京弘前関係者交流委員会総会
　２６日　　斜里町慰霊祭・斜里町ねぷた参加　（～２９日）
　２７日　　日置順正さんを偲ぶ会(斜里町)
　２９日　　ちびっこねぷたのお通りだい
　３１日　　中弘南黒地区日韓親善協会役員会総会・懇親会

８月　１日　　弘前ねぷたまつり出陣式　（～４日）
　　３日　　弘前ねぷたまつりコンテスト表彰式
　　７日　　弘前ねぷたまつり「なぬかびおくり」
　１４日　　尾島ねぷたまつり　（～１５日）
　１７日　　北本市ねぷた絵及び囃子講習会　（～１９日）
　１８日　　津軽錦絵作家協会ねぷた反省会
　　〃　　津軽ひろさき応援隊総会・懇親会　（東京）
　２４日　　ファッション甲子園　（～２７日）

９月　１日　　弘前大学サマーカレッジ入学式　（～３日）
　１４日　　斜里町ねぷた絵描き方研修会　（～１７日）
　１５日　　レッツウォークお山参詣
　　〃　　ひろさき卍フェスティバル時代行列
　１６日　　カルチュアロード開会式
　　〃　　ひろさき卍フェスティバル流鏑馬他
　　〃　　ハイウェイコミュニケーションin仙台（物産販売）
　２２日　　函館グルメサーカス　（観光キャラバン）

１０月　３日　　みちのく三大桜名所連絡会議（北上）
　　６日　　弘前・白神アップルマラソン前夜祭
　　〃　　りんご音楽祭
　　７日　　弘前・白神アップルマラソン
　　８日　　りんご節世界大会
　１２日　　津軽の食と産業まつり開会式
　　〃　　斜里町・太田市友好懇親会
　１３日　　青森人の祭典開会式（東京中野）
　１９日　　弘前城菊と紅葉まつり開会式
　　〃　　浅草弘前ねぷた運行協力　（～２１日）
　２０日　　フランス視察ミッション団　（～２６日）
　２７日　　弘前市・斜里町友好交流の会記念碑建立竣工式（りんご公園）

１１月　３日　　まち歩きフォーラム開会式・講演会・分科会　（～４日）
　　〃　　弘前市りんご公園りんご収穫祭開会式
　　９日　　北本まつりねぷた運行・物産交流会　（～１２日）
　１３日　　みちのく三大桜名所連絡会議首都圏キャラバン　（～１５日）
　１４日　　在京弘前関係者交流会

１２月１２日　　光のオブジェ点灯式記念講演会
　１３日　　弘前こぎん研究所７０周年祝賀会

１５日　函館クリスマスファンタジーひろさきナイト （～１６日）

１月　１日　新年互礼会
　８日　弘前城雪燈籠自衛隊完結式・さくらまつりポスター選考会
　１６日　弘前青年会議所新年会
　〃　シードルパーティー
　２４日　弘前市都市公園審議会
　２６日　津軽錦絵作家協会新年会
　２７日　弘前ボランティアガイドの会新年会
　３１日　津軽海峡フェリー新年会
　〃　台湾弘前市民の翼 （～３日）

２月　３日　さっぽろ雪まつりへの弘前市キャンペーン協力 （～１２日）
　８日　弘前城雪燈籠まつり・ひろさき雪明り （～１１日）
　１８日　津軽地域観光団体会長サミット・協会懇親会
　２７日　ＪＴＢ津軽会情報交換会
　２８日　弘前露店商業組合総会後懇親会
　〃　警察官友の会総会・懇親会

３月　６日　北海道木古内観光職員研修受け入れ （～１３日）
　１２日　全国旅行業協会県支部総会
　１５日　名古屋旅まつりキャンペーン （～１８日）
　２１日　弘前桜まつり協賛会総会後懇親会
　２６日　弘前菓子組合合同総会・懇親会
　２８日　弘前城公園活用推進検討会議

・総会　２回（通常総会 ５月、臨時総会 ９月）
・監査会　１回 ５月
・三役会　延べ １８回及び理事会　延べ １３回
・各部会　総務部会７回、地域活性化検討部会２回、まつり検討部会５回、誘客推進検討部会３回、
・委員会　雪明り実行委員会３回、雪燈籠まつり運営委員会２回、菊と紅葉まつり運営委員会２回
　津軽地域観光団体事務局連絡会議５回、会報編集会議　８回
・その他　関係団体会議出席　２０３回